

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目9番地1		
自己評価作成日	令和5年12月11日	評価結果市町村受理日	令和6年4月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様・ご家族様に安心して過ごしていただける終身型の施設です。認知症があっても、最期まで「人として生きる姿」が保てるよう、『利用者様本位「できる力で生き生きと!」笑顔あふれる江並「福寿苑」』を施設理念とし、全スタッフ支援させていただいています。特浴室を設けてあり、看護体制も確立しているため、重度の方も受け入れ可能となっています。現在は、コロナ等の感染症対策のため、活動に制限がありますが、各階でイベントを開き、少しでも楽しい時間を過ごしていただけるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosyoCd=2172101095-00&amp;SerViceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosyoCd=2172101095-00&amp;SerViceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年3月24日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の毎日の生活が笑顔で穏やかに過ごせ、楽しく暮らせるように支援している。コロナ禍で外出の機会や外部との交流が限定されているなかで、心身機能の維持向上を目指し生活リハビリや行事レクリエーションを取り入れている。利用者がこれまでの生活で行っていた洗濯物たため、モップかけ、調理の下拵え、広告でのゴミ箱作り等が役割として継続できるようにしている。利用者の気持ちが不安定な時は、利用者に寄り添い声かけの工夫や気分転換できるように支援している。職員面談で働き方の希望が言える体制で働きやすくしている。日勤・夜勤の2交代勤務で、ユニット内で業務内容を分担し交代できるようにして働きやすい職場にしている。本部から様々な情報提供と共に研修の機会や指導が得られる仕組みで、職員が穏やかに接する事で利用者に安心と笑顔を提供している事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感染症対策のため、全体会議は行っていませんが、各ユニットで毎月会議を行い、ご利用者様本位のケアができていますのか振り返り、ご利用者様のできる力を生かす支援ができるよう取り組んでいる。	理念を基に事業所独自のスローガンを作り、出退勤時や書類確認の際に目に付く事務所に掲示している。ユニット会議の時に、理念について再確認している。年に1回、理念についての職員アンケートを実施し振り返りもしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策により、地域の行事に参加したり、ボランティアを招き入れることができない状態が続いていますが、近隣の保育園や小学校から作品や手紙をいただき、こちらからも作品をプレゼントさせていただいたり、散歩の途中に訪問させていただいたりし、関係が途切れてしまわないようにしている。	近所の保育園から作品をもらい玄関先で受け取ったり、小学校から暑中見舞いの葉書が届き、お礼に折り紙で鶴を折って届けている。自治会の組織は廃止となったが、地域との関わりは大切にしたいと、民生委員から地域の情報や様子を聞いている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や行政、ご家族様へ事業所の状況や事故等の報告を行い、ご意見やアドバイスをいただいている。ご意見は、会議録に記載し、スタッフ皆が閲覧できる場所に置き、またユニット会議で伝え、サービス提供につなげられるようにしている。	運営推進会議には家族、民生委員、市職員、市議会議員、交番、消防署に出席を依頼している。地域の情報をもらったり、離設の際の助言や専門的な知識をもらい活用している。家族や出席できなかったメンバーに議事録を送付している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ行くことは少なくなりましたが、メールや電話、運営推進会議や研修会等で困っていること等を相談し、協力関係が築けるようにしている。	市との連絡はメールが多いが、更新申請等の書類提出時は職員が出向き、市の担当者や情報交換し実情を伝えている。補助金等の事務的な事は本部が行っている。集団指導や事業者連絡会が行う研修に参加している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や資料を用い、身体拘束をしないケア方法についての勉強会を行っている。現在、人感センサーを使用させていただいている方がみえる。常に離設の危険性のある方がみえ、玄関等施錠をしているが、出られないというストレスがたまってしまわないようなケアに努めている。	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会を3ヶ月毎に開催し、委員会での内容をユニット会議で職員に伝えている。センサー使用については委員会で話し合っている。行動を制止する言葉や「ダメ」と言わないケアに努めている。不穏な様子の人には散歩に行ったり、気分転換できるようにしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会が中心となり、ケアの振り返りや取組みを毎月行い、不適切ケアにつながらないように努めている。ユニット会議時に、虐待についての勉強会をしている。	定期的にな適切ケアについて話し合いや見直しを行い、ケアについて振り返りを行っている。虐待防止のマニュアルは作成しているが、指針と研修の記録が確認できなかった。	虐待防止の指針を作成し、年2回の研修を行った際の記録を整備された。

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画を立て、勉強会月には資料を配布し、ユニット会議時にみんなで学んでいる。また、必要に応じて制度を活用できるようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時に説明を行い、書面にて承諾を得ている。説明の際は、ご利用者様やご家族様の背景に配慮しながら、対応できるように努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の訪問時や、運営推進会議・家族アンケートで意見やご要望を伺い、ユニット会議で話し合い、改善している。ご利用者様から、ご意見をいただけるような声掛けや雰囲気づくりに努めている。	家族が面会時に利用者の日頃の様子を伝え、意見や要望を聞いている。3ヶ月に1回は写真と一緒に、事業所での様子を伝えている。家族の希望で毎月写真を付け、日頃の様子を報告する人もいる。年1回は家族アンケートを行い、意見を聞いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を年2回実施し、意見や提案を聴く機会を設けている。また毎月のユニット会議で意見を言える場がある。日ごろから相談しやすい関係づくりに努め、会議まで待てない案件については、その場その場で検討している。	普段の業務中やユニット会議で、職員の意見を聞いて取り入れている。職員の意見でレクリエーションの内容を決めたり、物品の購入をすることができるようにしている。職員面談で希望の働き方とし、時短勤務、日勤帯勤務、業種や休暇も希望に合わせたシフトにしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員個々の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮を行い、働きやすい環境づくりに努めている。	職員の体調、年齢や家庭事情に合わせて就業できるようにしている。食費やインフルエンザの予防接種に補助がある。本部から20周年記念式典時に功労者の表彰、全員に記念品、季節毎に数の子や果物の配布がある。外部研修の参加費の補填がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について年間計画を立て、実施できるよう努めている。また年2回は自己評価を行い、日々のケアの振り返りができるようにしている。新人職員については、能力に応じ、見習い期間を検討し、安心してご利用者様と関われるようにしている。	本部で年間の職員研修計画に合わせて実施している。外部研修に参加した職員の伝達講習がある。職員の経験やレベルに合わせて研修を推奨し、学ぶ機会を与え参加しやすくしている。新人研修はチェック表にてリーダーが確認し指導している。年2回の自己評価で目標設定し振り返り、次期目標を立てて、スキルアップできる体制にしている。	

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策のため、他施設との交流がなかなかできない状態にあるが、執行部会議で勉強会や情報交換を行うなど、サービスの向上に向けた取り組みをしている。会議の内容は全職員に周知している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様に対し感謝の言葉、自尊心を高め合うような言葉がけを行い、ご利用者様に寄り添いながら、共に支えあう関係を築けるよう心がけている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との会話やご家族様の話から、思いや意向をお聞きし、把握するようにしている。把握した内容は会議でお伝えしたり、連絡ノートに記載し、職員と情報を共有できるようにしている。	居室や入浴時の1対1になる時に、思いや希望を聞いている。筆談で会話する人もいる。飲み物やおやつを選択、起床時間や就寝時間の希望等は本人の意向に合わせている。困難な人には、表情や動作で汲み取っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様よりご意見をお聞きしたうえで、介護計画を作成している。毎月、モニタリングやユニット会議で支援状況やご状態を確認し、計画に沿っていない場合や状態変化時は計画を変更している。	利用者や家族の意見を事前に確認し、医師や看護師の意見も聞いている。3ヶ月毎に更新しているが、毎月の会議時にモニタリングし、全員で話し合いをしている。会議時に担当者会議も行い、必要があれば、その都度見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた内容を介護記録に記載している。勤務交代時の申し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有しながら、日々のケアに活かしている。	個別の介護記録は、ケアの内容を日課計画表に詳細に記載している。1日2回の申し送りと連絡ノートを活用し、周知漏れがないようにしている。出勤時に連絡ノートに目を通しサインする事としているが、急を要する場合は直接伝えている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様それぞれ違った背景があり、またその時々状況に応じたニーズに対応できるように心がけている。	病院受診に家族が付き添えない場合は、職員が受診に同行したり、病院で交代したりしている。買い物を代行する事もあるが、希望の化粧品が欲しい利用者と一緒に行き選んでもらう事もある。	

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な訪問理容の利用や、ボランティアからいただいたDVDを鑑賞するなどし、ご利用者が安全で楽しく生活していただけるよう機会確保・継続に努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人様、ご家族様の意向を確認し、協力医へ変更されてみえる方が多い。月に2回の往診がある。専門医への受診は、こちらからご状態を書面等でお伝えし、ご家族様が付き添い、受診している。必要時は看護師が同行している。	入居時に家族の希望で協力医に変更する人が多い。家族が受診に付き添う場合は、日頃の様子を書面で渡し、受診後に報告を受けている。状態に合わせて職員が付き添う時もある。協力医とは24時間指示が得られる関係である。歯科の訪問診療を予定している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入所者サマリーにて病院側に情報を提供し、治療中の生活に活かしていただき、退院時は入院中の注意点等を書面や電話でいただき、帰苑してからも、ご利用者が安心して過ごしていただけるよう努めている。入院中も面会させていただき、ご状態の確認をさせていただいている。	入院時は日頃の様子と経緯を記した書面を渡し、病院関係者に情報提供している。入院中も日用品の持参や状態確認に面会に行っている。どのような状態になったら事業所に戻れるかを家族に伝え、意向を確認し施設の紹介もしている。退院時は、カンファレンスに参加し、サマリーをもらっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の見学や入所時に事業所の方針をご利用者様・ご家族様に説明し、意向を確認している。状況が変化した際は、再度意向確認し、書面を交わしている。終末期は、医師・看護師よりご家族様・職員に説明があり、方針を共有し、取り組んでいる。	入居時に本人や家族に事業所の方針を説明し、意向や希望を聞いている。状態に合わせて家族に説明し、看取りの希望に応じている。終末期には、看護師が職員へ対応について指導している。職員で方針を共有しながら、看護師や協力医に連絡できる体制にしている。家族が泊まる事もある。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を行い、日ごろから各職員が適切に対応できるよう、介護職員間や看護職員とも連携を図り、初期対応できるように備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの勉強会や夜間想定を含めた防災・水害時の訓練を行っている。水害時は事業所が避難待機所としている。非常食や毛布等を備蓄している。	夜間想定訓練時は優先順位を決めて誘導や職員の非常招集訓練をしている。緊急用滑り台を利用者と一緒に滑る体験もして、反省点を話し合っている。緊急持ち出し用ファイルを作り、事務所に置いている。非常食、毛布やオムツを備蓄し、BCPを策定している。	

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助が必要なご利用者様でもトイレへの誘導時は、必ずカーテンを閉め、外で見守り、ゆっくりと排泄できるよう、プライバシーに配慮している。排泄への誘導時も一人一人に合わせた羞恥心に配慮した声掛けを心がけている。	接遇研修を行い、自尊心を傷つけない声かけをし、気になる場合は、その都度話しをしている。トイレ誘導時や失敗時の声かけは、特に注意し傷つけないように配慮している。オムツやパッドが目につれないように、居室での保管場所にも気をつけている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの都合を押し付けず、ご利用者様が思っておられること、望んでみえることを話していただけるような雰囲気づくりをしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に合わせた日常を過ごしていただけるよう個々のペースを大切に、表情や動作から気持ちを汲み取るよう心がけている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の希望や好みを考慮し、買い出しや献立～調理を行っている。感染症対策として外食は、まだ再開となっていないため、季節に合わせた料理やテイクアウトの利用、おやつ作りを一緒に行い、喜んでいただけるようにしている。	季節の食材で行事食も入れて、ユニット毎に調理している。誕生日は希望を聞き、茶碗蒸し、ちらし寿司、赤飯や天ぷら等になっている。夏野菜をプランターで育て収穫したり、もやしひげ取りやツクシの袴取り等のできることを一緒にしている。手作りおやつやテイクアウトを利用し楽しみな時間になっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食・嚥下機能に応じた食事形態を考え、少しでも安全においしく食事を召し上がっていただけるようにしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の自立度に応じた支援を行っている。ご状態に応じ、口腔ケアスポンジやガーゼを使用させていただく場合もある。誤嚥につながらないよう残渣物がないか、歯のぐらつき等の異変がないかも確認している。	毎食後、コップ・歯磨き粉・歯ブラシを準備し、口腔ケアを行っている。必要に応じ職員が介助したり、声かけや見守りし、口腔内の確認をしている。義歯は夜間洗浄剤に浸し消毒している。日に3回コップと歯ブラシの洗浄と週1回は消毒している。希望で舌ブラシ使用する人もいる。	

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録や時間、表情、行動をみて、トイレ誘導を行っている。立位が取れるのであれば、職員二人でトイレ介助を行い、できる限りトイレで排泄していただけるようにケアに努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調やその方の湯温等の好みを把握し、ゆっくりと入浴していただけるよう順番に配慮している。重度化されても入浴していただけるよう機械浴がある。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の希望に応じ、またはしっかりと観察を行い、日中でも休んでいただける時間を設けている。夜間・日中共に空調管理に努め、安眠できるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の誰もが閲覧できるように、各ご利用者様に処方されている薬の効能・用法等が書かれたファイルが事務所カウンターにある。また、普段からよく観察を行い、体調等の変化に気づけるよう努めている。	薬情を個人ファイルに綴り、いつでも確認できるようにしている。服薬セット時と配薬時は、職員二人で確認している。服薬時は飲み込みと口腔内に残っていないかを確認している。服薬の記録者と別の職員が、空き袋の確認を行い廃棄している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の現状を把握し、各ご利用者様に合った役割提供ができるよう支援している。また、レクリエーションを行い、生活の中に楽しみがあるよう支援している。	洗濯物たたみ、日めくりカレンダーの日にち替え、モップかけ、ゴミ箱作り等を職員と一緒にやっている。塗り絵、編み物、習字等の以前から行っていた事が継続できるようにしている。カラオケ、ラジオ体操、ボーリング、おやつレク等で楽しみとなるようにしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症対策のため、大々的な外出支援はできていないが、散歩やベランダに出ている機会を作り、普段から日向ぼっこや外気に触れ、気分転換できる機会を作っている。	天気の良い日には、無理強いせず1対1で散歩に出掛けたり、ベランダで日光浴や外の景色を眺めている。家族の協力を得て自宅での法要に参列する人もいる。夏野菜を利用者と育てる為に計画中である。戸外に出掛ける機会への支援が薄い。	コロナ禍ではあるが感染症対策をしながら、できる範囲で、戸外に出掛ける機会を更に増やせる事を期待したい。



グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との話し合いの中で、ご利用者様の思いを尊重し、対応している。感染症対策のため、買物へ出かけられないが、代わりに購入させていただいたときは購入品をお見せし、希望にあっているかの確認をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	予約制ではあるが面会の時間や電話の時間を設け、ご家族様と疎遠になってしまわないようにしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様お一人お一人に確認し、空調管理している。訴えられない方に関しては、手や足の温かさを確認し、調整することもある。加湿空気清浄機を設置。カレンダーや季節の飾りつけを行い生活感や季節感を感じられるようにしている。	リビングには手作りのカレンダー、季節の作品、飾り物や花を飾っている。空気清浄機を設置し、日に3回の換気、手摺りやドアノブ等の消毒、テーブルにアクリル板を置いて感染症予防に努めている。新聞を読んだりTVを見たり自由に過ごせるようにしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いて過ごしていただける席の配置を心がけている。午前中は日当たりの良いところに椅子を設置し、日光浴ができたり、気の合う方同士、会話を楽しんでいただけるよう、食事以外は自由に座っていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様のご希望があれば、畳を敷いたり、ベッドではなく布団をご準備することも可能である。写真や大切にされておられたものを持ってきていただき、安心して過ごしていただけるようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、ご利用者様の動線に物を置かず、車いすの方でも生活しやすい環境づくりに努めている。トイレの名称を分かりやすく表示し、できる限り、自立した生活ができるよう工夫している。		



### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	令和5年12月11日	評価結果市町村受理日	令和6年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;i_gyosvoOd=2172101095-00&amp;SerVi.ceOd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;i_gyosvoOd=2172101095-00&amp;SerVi.ceOd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年3月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感染症対策のため、全体会議は行っていませんが、各ユニットで毎月会議を行い、ご利用者様本位のケアができていますのか振り返り、ご利用者様のできる力を生かす支援ができるよう取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策により、地域の行事に参加したり、ボランティアを招き入れることができない状態が続いていますが、近隣の保育園や小学校から作品や手紙をいただき、こちらからも作品をプレゼントさせていただいたり、散歩の途中で訪問させていただいたりし、関係が途切れてしまわないようにしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や行政、ご家族様へ事業所の状況や事故等の報告を行い、ご意見やアドバイスをいただいている。ご意見は、会議録に記載し、スタッフ皆が閲覧できる場所に置き、またユニット会議で伝え、サービス提供につなげられるようにしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ行くことは少なくなりましたが、メールや電話、運営推進会議や研修会等で困っていること等を相談し、協力関係が築けるようにしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や資料を用い、身体拘束をしないケア方法についての勉強会を行っている。現在、人感センサーを使用させていただいている方がみえる。常に離設の危険性のある方がみえ、玄関等施錠をしているが、出られないというストレスがたまってしまわないようなケアに努めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会が中心となり、ケアの振り返りや取組みを毎月行い、不適切ケアにつながらないように努めている。ユニット会議時に、虐待についての勉強会をしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画を立て、勉強会月には資料を配布し、ユニット会議時にみんなで学んでいる。また、必要に応じて制度を活用できるようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時に説明を行い、書面にて承諾を得ている。説明の際は、ご利用者様やご家族様の背景に配慮しながら、対応できるように努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の訪問時や、運営推進会議・家族アンケートで意見やご要望を伺い、ユニット会議で話し合い、改善している。ご利用者様から、ご意見をいただけるような声掛けや雰囲気づくりに努めている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を年2回実施し、意見や提案を聴く機会を設けている。また毎月のユニット会議で意見を言える場がある。日ごろから相談しやすい関係づくりに努め、会議まで待てない案件については、その場その場で検討している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員個々の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮を行い、働きやすい環境づくりに努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について年間計画を立て、実施できるよう努めている。また年2回は自己評価を行い、日々のケアの振り返りができるようにしている。新人職員については、能力に応じ、見習い期間を検討し、安心してご利用者様と関わられるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	感染対策のため、他施設との交流がなかなかできない状態にあるが、執行部会議で勉強会や情報交換を行うなど、サービスの向上に向けた取組みをしている。会議の内容は全職員に周知している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様に対し感謝の言葉、自尊心を高め合うような言葉がけを行い、ご利用者様に寄り添いながら、共に支えあう関係を築けるよう心がけている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との会話やご家族様の話から、思いや意向をお聞きし、把握するようにしている。把握した内容は会議でお伝えしたり、連絡ノートに記載し、職員と情報を共有できるようにしている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様よりご意見をお聞きしたうえで、介護計画を作成している。毎月、モニタリングやユニット会議で支援状況やご状態を確認し、計画に沿っていない場合や状態変化時は計画を変更している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた内容を介護記録に記載している。勤務交代時の申し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有しながら、日々のケアに活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様それぞれ違った背景があり、またその時々状況に応じたニーズに対応できるよう心がけている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な訪問理容の利用や、ボランティアからいただいたDVDを鑑賞するなどし、ご利用者が安全で楽しく生活していただけるよう機会確保・継続に努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人様、ご家族様の意向を確認し、協力医へ変更されてみえる方が多い。月に2回の往診がある。専門医への受診は、こちらからご状態を書面等でお伝えし、ご家族様が付き添い、受診している。必要時は看護師が同行している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入所者サマリーにて病院側に情報提供をし、治療中の生活に活かしていただき、退院時は入院中の注意点等を書面や電話でいただき、帰苑してからも、ご利用者が安心して過ごしていただけるよう努めている。入院中も面会させていただき、ご状態の確認をさせていただいている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の見学や入所時に事業所の方針をご利用者様・ご家族様に説明し、意向を確認している。状況が変化した際は、再度意向確認し、書面を交わしている。終末期は、医師・看護師よりご家族様・職員に説明があり、方針を共有し、取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を行い、日ごろから各職員が適切に対応できるよう、介護職員間や看護職員とも連携を図り、初期対応できるように備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの勉強会や夜間想定を含めた防災・水害時の訓練を行っている。水害時は事業所が避難待機所としている。非常食や毛布等を備蓄している。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際は、必ずノックと声掛けを行い入室する。トイレ使用時はカーテンを閉める。排泄時に失敗があった場合の声掛けに配慮している。排泄確認の際も、大きな声でお尋ねしないよう気をつけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から、ご本人様がしたいこと・やりたいことをくみ取ったり、ご本人様に自分で決めていただけるようなお声掛けを普段からするようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべての方に離床をすすめるのではなく、各ご利用者様の気持ちに合わせ、リビングなのか居室で過ごされるのか決めていただいている。眠気が強く、食事が召し上がれない場合等は時間をずらす等、配慮している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況に合わせた食事形態を考え、季節の食材やご要望をメニューに取り入れ、提供させていただいている。準備や片付けもできる範囲で手伝っていただいている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人のご状態に応じて、摂取していただけるよう、栄養のバランスや水分量を確認し、提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方に関しては、お声掛けを行い見守り、ご自身で難しい方は、その方に合わせた物品(口腔ケアスポンジやガーゼ等)・ケア方法で清潔を保てるよう支援している。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っている。汚染等があった場合、自尊心を傷つけない配慮をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の状態に合わせ、特浴または一般浴で入浴していただいている。洗身、洗髪、髭剃り等、ご本人様がご自身でしていただき、できない部分の支援を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に合わせ、いつでも休息していただけるよう支援している。加湿器を使用するなど空調管理に気をつけ、安心して眠れるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が閲覧できるよう、効能・用法等が書かれたファイルがあります。服薬支援時は、飲み忘れや落葉がないよう、飲み込み確認まで行い、確認しています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、テレビ鑑賞、新聞の閲覧、簡単な家事等、個々に合わせた生活環境が整えられるよう支援しています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症対策のため、希望に沿った外出や普段行けない場所への外出はできていませんが、気候の良いときは、移動が車いすの方であっても、近所に散歩に出かけ、気分転換していただいている。		



グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染症対策のため、買物に出かけられていない状態ですが、ご家族様へ購入を依頼し持参していただいたり、代わりに購入させていただき、希望に合っているかどうかの確認をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやり取りや、制限はありますが面会をしていただき、関係が途切れてしまったり、距離感が遠くなってしまうよう、支援させていただいている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った作品を一緒に作ったり、掲示したりし、季節を少しでも感じていただけるようにしている。暑がりの方、寒がりの方がみえますが、できる限り、快適な空間となるように空調管理に努めている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかに過ごしていただけるよう、席の配置に気をつけている。会話での交流や自席で、それぞれの趣味をしていただけるような環境づくりに努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのご利用者様に合わせたベッドや家具の配置をしている。使い慣れた物や大切にされていたものを持参していただき、居心地の良い居室となるようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩の方、車いすの方共に、危険がないよう、物の置き場所等を考えている。ご本人様のできることは、ご自身でしていただけるよう配慮した声掛けをしている。		